

マイスターだより

川西町立小松小学校
令和8年8月31日(月) No.21
文責：情野 夏美

武蔵野市立関前南小学校 拡大校内研修会に参加してきました！

金曜日に、東京都武蔵野市立関前南小学校の拡大校内研修会「みんなで踏み出そう これからの算数教育への一歩」に参加してきました。関前南小は、今年度「教育課程実践検証協力校」だそうです。公開授業と講演会に参加してきました。加固先生もいらっしゃいました！字ばかりで大変申し訳ないですが、本当に学び多き研修会でしたので、ぜひ最後までお読みいただきたいと思います！指導案、板書、メモ等も回覧しますので、ご覧ください。

【公開授業】

45分の半分は、新潟市立上所小学校 志田倫明先生の5年算数「図形の面積（1時間目）」を参観しました。後半は、7つの授業を通覧しました。この日は、2学期が始まって2日目。しかも、5クラスは先生も子どもたちも今日初めて会ったの授業だそうです。すべての先生方が単元の1時間目をされていました。

指導案ですが、加固先生の模擬授業の指導案にもあったように、**単元計画が下から上になっているものが多くありました。この単元でこの力（目標）をつけるためにどのように単元を構成していくか、一時間単位のぶつ切りではなく単元全体を見通した&つなげた教材研究が大事になってくるなと感じました。また、系統性という言葉も何度も聞かれました。既習を大いに活かしたり、既習の中から何が使えるか選択したりして次の新しい学びにつなげていく。**本校が目指す「自己調整力」にもつながってくるなと感じました。

ここでは、志田先生の授業で学んだことを紹介します。・は志田先生の授業内容、→はトークセッションでの志田先生のお話、⇒は情野が感じたことです。

- ・導入は、既習の長方形の面積の公式を確認し、面積を求めることからスタート。
→子ども自身で学びをつなげられるように、既習を未習へつなげる手立て。
- ・電子黒板で、先ほど求めた長方形が右斜めに一マスずつ動く様子を見せる。（4つの平行四辺形）
→一つの平行四辺形をみんなで求める方法ではなく、4つの平行四辺形を出した理由は？＝子どもが持ち出す知識は違うから。
⇒本校で行った研修会で加固先生にご指導していただいた時にも教えていただきましたが、1時間で一つの問題だけに集中してしまうと、数字や形がちょっと変わっただけで応用が利かなくなるそうです。そして、子どもは、問題を全く別のものと認識し、とたんに既習が生かせなくなるそうです。したがって、めあても工夫することが必要だそうです。数字、形が変わっても解けるようにすることが大切だと教えていただいたことを思い出しました。志田先生が4つの平行四辺形から選ばせて解かせたのも、そういう理由があるのかなと勝手に感じました。
- ・子ども達は、自分が選んだ平行四辺形の面積を求める。ひたすら一人で解く子もいれば、立って友達と解く子もちらほら。みんな先ほど確認した「長方形」に戻して面積を求めることを使って解いていました。
→長方形の面積の求め方を確認したことで、平行四辺形に求める際に、長方形に戻したいという気持ちが子どもの中に内在されることになる。
→深い学び＝方向目標
「もっと分かりたい」「もっと調べたい」を増やしていきたい。
単元を貫いて何が分かっているかが大事。

【講演会】

①「算数科における深い学びの実装」 加固 希支男先生

- ・次期学習指導要領における「深い学び」とは…

個別の知識及び技能、個別の思考力、判断力、表現力等について、一体的に育成しつつ、それらの統合的な理解や総合的な発揮を促す学び。

「統合的な理解」…学習を通じて「理解してほしい（数学の）概念的要素がどのようなもの」で、「概念的要素を用いることで何ができるのか」を具体的に示す。

「〇〇は、△△ができるものなんだね。」

「総合的な発揮」…学習の場面や日常生活、社会において、「概念的要素の何に着目」して、「具体的にどのような数学的な問題解決ができるようになるのか」を記述。

「〇〇は、▲▲に着目して□□するといいいんだね。」（着眼点）

- ・「深い学び」のキーワードは、学習を関連付ける。
〇〇ってこういうことだよ！次も同じようにできるかな？

- ・達成目標から方向目標へ

- ・学習を関連付けた教材研究を。

目指す！学年を越えた、系統性を意識した教材研究



↑でも、いつも学年を越えた系統性を意識

まず！単元を通した教材研究



一単位時間の教材研究

②「次期学習指導要領に向けて」 堀田 龍也先生

- ・「多様性を包摂」する。授業もまた多様。教師も多様。同じところなのに、指導の仕方も多様。子どもの実態や先生の技量。

※「包摂（ほうせつ）」とは、あるものを大きな範囲の中に包み込んで取り込むこと、または多様な人々や意見を包括的に受け入れること。

- ・教育課程の弾力化に向けた検討

→その学校の判断で決めることができる。

- ・単元構想を下から書く形式は、文科省の例示がある。抽象化しやすい順番になっている。

- ・令和10年度～11年度「先行実施」

→いよいよ始まる！やれる人からやれるところを実施する期間。

- ・論点整理（文科省 HP より）

教育課程企画特別部会 論点整理

https://www.mext.go.jp/content/20260129-mxt_kyoiku01-000045057_01.pdf

論点整理ポイント資料（概要版）

https://www.mext.go.jp/content/20260129-mxt_kyoiku01-000045057_5.pdf

論点整理ポイント資料（詳細版）

https://www.mext.go.jp/content/20260129-mxt_kyoiku01-000045057_6.pdf

加固先生も堀田先生も特別に新しいこととお話されていたわけではなく、今まで何度も聞かれた「単元を通した教材研究」「系統性」の重要性をお話しされていました。